

「念仏・和讃」データベースと e ラーニングの構築 ―その1

遠 山 和 大
黒 田 義 道
深 見 友紀子
赤 羽 美 希

I. はじめに

浄土真宗（真宗）各派¹⁾の寺院および門徒の間で日常的に行われる勤行においては、「正信念仏偈（以下、正信偈）」が勤められる場合が多く、それに引き続いて「念仏・和讃」と「回向」が読誦される。

一般に、読経を行う際には旋律をつけず、いわゆる「棒読みで唱える」というイメージがあるが、真宗においては、「正信偈」および「念仏・和讃」などに旋律をつけて読誦することが一つの特色となっている。この旋律は、各派ごとに異なるものが用いられており、テキストは同一であっても、実際に読誦される場面での聴覚的イメージは、派によって大きく異なる。この差異は、各派の持つ歴史的な背景などに起因するものと考えられる。

例えば本願寺派・大谷派の場合、各派が定めた旋律による「正信偈」や「念仏・和讃」を録音した CD が市販されているものの、それら以外の派については、一般的にアクセスできる資料中にそれらの旋律が示された例は皆無であろう。こうした事情から、各派の僧侶や門徒の間では、宗派によって旋律に差異があることは広く知られているものの、自身が所属する派以外で用いられている旋律がどのようなものなのか、興味を惹かれることであっても、それを具体的に知る機会は多くない。

また、学術的な研究の側面においては、「和讃」の内容に関する研究は数多

く、また読誦の歴史についての研究も見られるが²⁾、各派の旋律を比較する研究は、筆者らの知る限りにおいて、これまで行われておらず、ましてや、その旋律のデータベース化も行われていない。

宗派による旋律の差異に興味を持った筆者らは、2013～2014年度に各派「正信偈」の旋律の音声を収集し、五線譜化を行った上で、web上に『正信偈データベース』として公開した^{3) 4) 5)}。その結果、各派ごとの旋律の差異が明らかになっただけでなく、作成されたwebデータベースは、eラーニングの教材として、京都女子大学など浄土真宗系学校の学生や、家庭で勤行の練習を行う一般門徒、浄土真宗各派の僧侶など、「正信偈」に関心を持つ人々が活用できるようになった。

こうした「正信偈」に関する先行研究に引き続き、本研究では「念仏・和讃」に関して以下の作業を行った。

1. 各派における「念仏・和讃」の旋律を収集する。
2. 収録した旋律を、主に西洋音楽で用いられる五線譜上に採譜する。
3. 各派「念仏・和讃」の楽譜・音声、および解説等をデータベース化してweb上に公開する。

真宗の勤行において「正信偈」とセットで用いられる「念仏・和讃」についても、真宗各派における「念仏・和讃」の旋律の差異を明らかにするとともに、「正信偈」と同様のデータベースを作成することで、より充実した各派勤行のeラーニング教材を公開することができよう。

本研究は2015～2016年度の2ヶ年度にわたって進める予定であり、本稿はその1年目（2015年度）についての報告である。2015年度は、真宗10派のうち、本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派・木辺派の5派の本山において調査・分析を行い、残る5派については2016年度に実施することとする。

なお、本稿では、前述した「正信偈データベース」についての報告も行う。

II. 「念仏・和讃」について

真宗の勤行で用いられる「念仏・和讃」のうち、「念仏」は「南無阿弥陀仏」の名号に旋律を付したものである。また、「和讃」は仏や先人の高僧などを讃える歌に旋律を付したものである。これらは仏教音楽の一種である声明ということができよう。

和讃のテキストには、親鸞が著した『浄土和讃』・『高僧和讃』・『正像末和讃』が用いられる（高田派では、これらに加えて『皇太子聖徳奉讃』も用いられる）。

前に述べたように、「念仏・和讃」の旋律は宗派によって差異が見られ、歴史的には、勤行を行う場面（法要）に合わせて数多くの旋律が存在していたようだが、時代とともに整理されてきた。現代では各派1～7種類の旋律が定められ、勤行を行う場面によって使い分けがなされている。例えば、本願寺派・木辺派は1種類の旋律だけが用いられるが、大谷派は7種類、佛光寺派は3種類、興正派は2種類の旋律が用いられている。

また、これらを読誦する際の作法も宗派や法要の内容によって異なる。多くの場合、「念仏」が数回にわたって唱えられた後に1～3首の「和讃」が読誦されるものを1セットとして、これを1～3セット読誦する場合が多い。また、例えば3セットを読誦する場合は、最初の1セットを「初重」、2セット目を「二重」、3セット目を「三重」のように呼び、低い音程で読誦される「初重」から高い音程による「三重」にかけ、音程を上げながら読誦するという形態が多く見られる。

なお、通常の勤行では「念仏・和讃」に引き続き、「回向」と呼ばれる偈文が読誦される。この偈文にも各派独自の旋律が定められており、本研究ではこの「回向」の旋律についても収集および採譜の対象とした。

III. 旋律の収集

本研究では、「正信偈」に関する先行研究の例にならい、各派で用いられている「念仏・和讃・回向」の旋律のうち、寺院だけではなく門徒一般の間で日常的に最もよく使用されていると考えられる旋律、具体的には、各派が門徒向けに制作した CD に収められている旋律のみを収集の対象とした。

こうした CD は、本願寺派・大谷派を除き、一般的にはほとんど流通しておらず、各派の本山において、主として門徒向けに販売されているものである。したがって、特に佛光寺派・興正派・木辺派の3派における「念仏・和讃」の旋律は、これまで各派の僧侶や門徒の間以外ではほとんど知られてこなかっただけに、貴重な資料であるといえよう。

収集された5つの旋律はいずれも、それぞれが独自の節回しを持つものであった。本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派・木辺派の旋律に対応する「念仏・和讃」の冒頭部分を資料1に示す。

資料1 本研究で取り上げた5派（本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派・木辺派）の、「念仏・和讃」の経本。冒頭に読誦される「念仏」から「和讃」の一首目までを示した。テキストの右側に、「博士」^{はかせ}が記入されている。

本願寺派⁶⁾

南	南	南	南	南	南	南
な	な	な	な	な	な	な
無	無	無	無	無	無	無
も	も	も	も	も	も	も
阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿
あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ
弥	弥	弥	弥	弥	弥	弥
み	み	み	み	み	み	み
陀	陀	陀	陀	陀	陀	陀
だ	だ	だ	だ	だ	だ	だ
ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん
仏	仏	仏	仏	仏	仏	仏
ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ

弥陀成仏^{ハハシ}のこのかたは
 いまに十劫^{しじゅう}をへたまへり
 法身の光輪^{ほつしんこうりん}きはもなく
 世の盲冥^{せのもうみょう}をてらすなり

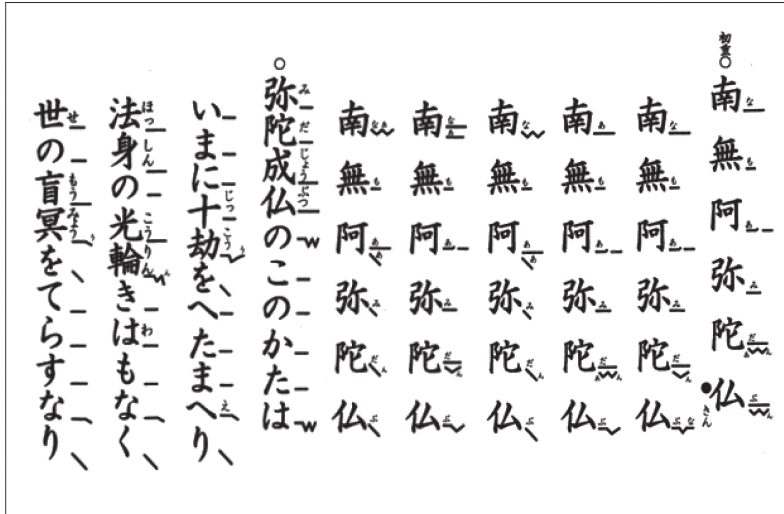
大谷派⁷⁾

三
濁
重
初
南^一無^一阿^一彌^一陀^一佛^一
 南^三無^一阿^一彌^一陀^一佛^一
 南^三無^一阿^一彌^一陀^一佛^一
 南^三無^一阿^一彌^一陀^一佛^一
 南^三無^一阿^一彌^一陀^一佛^一
 南^三無^一阿^一彌^一陀^一佛^一
 彌陀成佛のこのかたは
 いまに十劫をへたまへり
 法身の光輪きはもなく
 世の盲冥をてらすなり

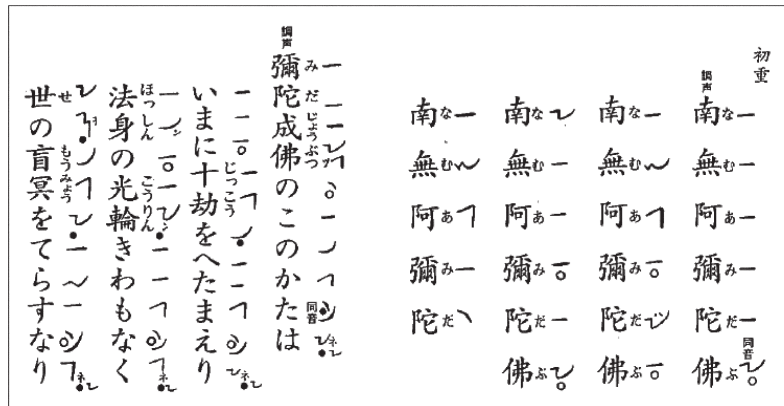
佛光寺派⁸⁾

南 ^一 無 ^一 阿 ^一 彌 ^一 陀 ^一 佛 ^一	南 ^一 無 ^一 阿 ^一 彌 ^一 陀 ^一 佛 ^一	南 ^一 無 ^一 阿 ^一 彌 ^一 陀 ^一 佛 ^一	○南 ^一 無 ^一 阿 ^一 彌 ^一 陀 ^一 佛 ^一 初重 調声
南 ^一 無 ^一 阿 ^一 彌 ^一 陀 ^一 佛 ^一	南 ^一 無 ^一 阿 ^一 彌 ^一 陀 ^一 佛 ^一	南 ^一 無 ^一 阿 ^一 彌 ^一 陀 ^一 佛 ^一	○彌陀成佛のこのかたは 調声
世の盲冥をてらすなり	法身の光輪きはもなく	いまに十劫をへたまへり	

興正派⁹⁾



木辺派¹⁰⁾



IV. 旋律の楽譜化

従来、「念仏・和讃」などの声明は口伝によって後世に伝授されてきた。声明には、いわゆる楽譜に相当する、「博士」^{はかせ}^[11]と呼ばれる記号があり、現在用いられている「念仏・和讃」のテキストにも、それらが併記される場合が多い。資料2で示した各「念仏・和讃」のテキストにも、各派で用いられている「博士」が記されている。しかし、これらの「博士」は、現代の概念でいう楽譜とは異なり、あくまでも参考として記入されているものである。したがって音高や音価^[12]を厳密に表現したものではない。また、少なくとも現代においては、これらの博士を「読譜」すること自体が一般的ではなく、「念仏・和讃」に親しもうとする人たちが「念仏・和讃」のテキストを見たとしても、具体的に旋律をイメージすることは非常に困難であろう。

このような観点から、派によっては、博士に頼らない方法で旋律を表現している場合もある。例えば、佛光寺派では、一種の五線譜に音高や音価を表現したものを採用している（資料2）。

資料2 佛光寺派で用いられている、五線譜に音価・音高などを記した「念仏・和讃」経本の冒頭部分¹³⁾。

行譜念佛和讃六首引

初重念佛和讃

(A) 句頭 初重調子 平調 (E) 出音山 整彦 (B)

南—無—阿彌陀佛

同音

佛—南—無

阿彌陀佛

The image displays three staves of musical notation on a five-line staff. The first staff shows a pitch contour for the phrase '南—無—阿彌陀佛' (Namu Amida Butsu). The second staff shows a pitch contour for '佛—南—無' (Butsu Namu) with a '同音' (same pitch) label. The third staff shows a pitch contour for '阿彌陀佛' (Amida Butsu). The notation includes various symbols for pitch and rhythm, such as '句頭' (start of phrase), '初重調子' (first weight tuning), '平調' (flat tuning), '出音山' (sound mountain), and '整彦' (Shōgen). The lyrics are written below the staves.

声明は口伝によって継承されるものであるため、「念仏・和讃」の旋律もまた同様に、優れた指導者による直接の指導によって習得するのが望ましい。しかし一方で、浄土真宗系学校での宗教教育における学習や、一般門徒が家庭での勤行の練習を行う上では、より多くの人が親しめる方法で旋律を記述する必要もあると思われる。

このため、筆者らは「念仏・和讃」の音源を収集するだけでなく、旋律を西洋音楽における一般的な記譜ルールに基づいて五線譜に採譜した。採譜を行ったのは、筆者の一人である赤羽である。筆者らは、先行研究において「正信偈」の楽譜化を行ってきたが、本研究においても、その際に得られた知見を踏まえて採譜を行った。すなわち、収集された音源を可能な限り忠実に五線譜上に記譜するように心がけ、その一方で、現代音楽で用いられる、きわめて複雑な記譜法に頼ることなく、必ずしも楽譜を読むことに慣れていない人たちでも容易に読譜できるような楽譜となるように配慮した。

なお、「和讃」の旋律は、一首ずつ異なる場合もあり、その全てを採譜する事は非常に困難である。本研究で取り上げた5派のうち、本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派では『浄土和讃』の「弥陀成仏のこのかたは」からの6首(いわゆる「六首引」)、木辺派は3首(「三首引」)が、代表的な例として経本およびCDに収録されており、本研究ではそれらを採譜することとした。

なお、「正信偈」と同様に、「念仏・和讃」の旋律を楽譜化した例は過去にも存在するが、音楽の専門家の手を経ずに楽譜化されたものが多く、またそうした楽譜の多くは各派の内部資料として作成されたものであり、一般的にアクセスできないものである。さらに、複数の宗派にわたって楽譜を作成した例は、筆者らの知る限り皆無である。

以上の工程から得られた楽譜の一部を資料3に示す。

資料3 本研究において作成した、5派(本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派・木辺派)の「念仏・和讃」の楽譜。最初の念仏と、和讃「弥陀成仏のこのかたは」の冒頭部分。

本願寺派

The musical score is written on four staves. The first staff begins with a tempo marking of ♩ = ca.45, a 'Solo' instruction, and a 'rit.' (ritardando) marking. It contains the lyrics 'な も あ み だ - - ん ぶ'. The second staff starts with a tempo marking of ♩ = ca.48, a 'Tutti' instruction, and an 'accel.' (accelerando) marking. It contains the lyrics 'な も あ み だ - - ん ぶ'. The third staff has a tempo marking of ♩ = ca.60 and contains the lyrics 'な も あ み だ ん ぶ' and 'な も あ み だ ん ぶ'. The fourth staff has a tempo marking of ♩ = ca.55, a 'Solo' instruction, and contains the lyrics 'み だ じょ う ぶ つ の こ の か た は - -'. Various musical notations such as 'rit.', 'Tutti', 'accel.', 'poco', 'V', and 'Solo' are used throughout the score.

♩ = ca.60
Tutti

い ま に ー じっ こ う を ー へ た ま え り

大谷派

[illegible]

佛光寺派

♩ = ca.45
Solo

な — む あ — — — — — み だ

poco poco V

ぶ — — — — — ん

キン

♩ = ca.30
Tutti

な む — — あ — — — — — み だ — — — — — ぶ

poco V

な — — — — — む あ — — — — — み — — — — — だ — — — — — ぶ

V

な — む あ — — — — — み — — — — — だ

♩ = ca.50
Solo

み だ じ ょ う ぶ つ の こ の か た は — — — — —

poco V

♩ = ca.60
Tutti

い — ま に じ ゅ こ — — — — — を — — — — — へ た — — — — — ま え — — — — — り

V

3

興正派

♩ = ca.70

Solo

な も あ — み だ — — — ん ぶ — — —

キン

Tutti

な も あ — — — み だ — — — ん ぶ — — — な

あ も あ — — — み だ — — — ん ぶ — — —

な — — — *mf* > *p* も あ — — — み だ ん ぶ

な あ も あ — — — み だ — — — ん ぶ — — —

な あ — — — *mf* > *p* も あ あ み だ ん ぶ

♩ = ca.115

Solo

み だ じょう ぶ つ の — — — — — この か た は — — — —

♩ = ca.100

♩ = ca.94 *accel.* ♩ = ca.110 *accel.* ————— ♩ = ca.120

Tutti

い ま に じつ こ う — — — を へ た ま え — — — り

木辺派

♩ = ca. 39 *ad libitum poco* *rit.* Solo → Tutti → ♩ = ca. 35 *rit.*

な も あ み だ ん ぶ - - な む - あ - い み だ - - ん ぶ

♩ = ca. 35 *rit.*

な - - む あ い み だ - ん ぶ - - - な む - あ - み だ

♩ = ca. 55 Solo poco Tutti

み だ じょう ぶ - - つ - - の - この - - か - た - - - - -

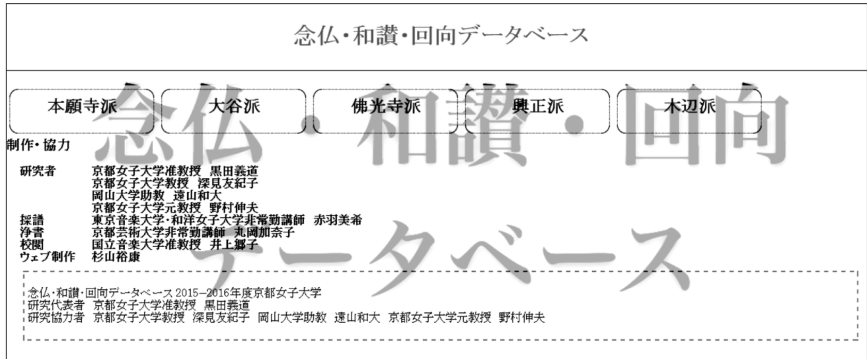
♩ = ca. 57 poco

ネ - い ま に い こ - を - へ た ま - え - - - リ - -

V. 「念仏・和讃・回向」データベースの作成

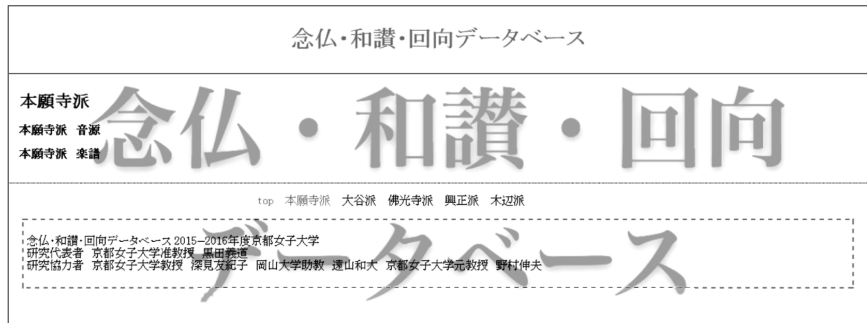
各派において収集した「念仏・和讃・回向」の音声と、それらを採譜した楽譜を、データベースとしてインターネット上で公開できるよう、「念仏・和讃・回向」として web コンテンツの作成を行った（資料4）。

資料4 「念仏・和讃・回向データベース」の表紙。



現在までに調査を行った5派の旋律ごとにweb頁を作成し、各頁内では音声ファイルの聴取と楽譜の閲覧が可能になっている（資料5）。

資料5 「念仏・和讃・回向データベース」の旋律ごとの頁の例（本願寺派）。各頁内では、ストリーミング方式による音声ファイルの聴取と、PDF形式による楽譜ファイルの閲覧が可能になっている。



現在のところ、このwebコンテンツは一般には公開されていないが、条件が整い次第、後述する「正信偈データベース」と同様に、京都女子大学のサーバー上で公開される予定である。

VI. 「正信偈」データベースの公開

2013～2014年度に実施した「正信偈」に関する研究で作成した、「正信偈データベース」を京都女子大学宗教文化研究所の web サイト内に公開した。このサイトでは、各派「正信偈」の音声および楽譜の閲覧が可能となっている。

音声に関しては、ほとんどの宗派より、門徒向けに作成された CD の音声を公開する許諾を得ており、著作権の関係上ダウンロードができないよう、ストリーミング方式による配信が行われている。また、楽譜に関しては PDF 形式での閲覧が可能である。

本研究において作成された「念仏・和讃・回向データベース」についても、2016年度に調査を行う高田派・三門徒派・出雲路派・誠照寺派・山元派の音声・楽譜を合わせた上で、同様に京都女子大学宗教文化研究所の web サイト内で公開を行う予定である。これにより、浄土真宗において、「正信偈」・「念仏・和讃」・「回向」という流れで日常的にとり行われている勤行の音声および楽譜が、各派ごとに一通り揃うことになる。

VII. まとめ

本願寺派・大谷派・佛光寺派・興正派・木辺派の5派において、日常的に多く用いられている「念仏・和讃・回向」の旋律を収集することができた。このことにより、ほぼこれまで各派に所属する僧侶や門徒の間でのみ知られてきた、各派の「念仏・和讃・回向」の旋律が明らかとなった。また、それらの旋律を主に西洋音楽で一般的に使用されている記譜法で楽譜化することで、「念仏・和讃・回向」の学習を行う上で容易に親しめるコンテンツを作成することができたといえよう。

こうして得られた音声および楽譜は、多くの人がアクセスできるよう web コンテンツとして公開する予定であり、浄土真宗系学校における宗教教育の教材、一般門徒の勤行の練習用教材、他派「念仏・和讃・回向」の旋律に関心を

持つ浄土真宗の僧侶の方々の参考資料など、多岐にわたるeラーニング教材として活用されることが期待される。

また、各派における「念仏・和讃・回向」の旋律の差異がどのような背景を持つものなのか、今後の詳細な研究によって明らかにされることが望まれる。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、各派本山の担当者の皆様には、インタビューおよび資料の収集にご協力をいただいた。また、真言宗豊山派仏教青年会より資料の提供をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

注

- 1) 浄土真宗（真宗）系の仏教教派は多岐にわたるが、本稿では、真宗教団連合に所属する「真宗10派」について取り上げる。真宗10派とその本山は以下の通りである。
 - a. 浄土真宗本願寺派、本願寺（西本願寺； 京都市）
 - b. 真宗大谷派、真宗本廟（東本願寺； 京都市）
 - c. 真宗高田派、専修寺（津市）
 - d. 真宗佛光寺派、佛光寺（京都市）
 - e. 真宗興正派、興正寺（京都市）
 - f. 真宗木辺派、錦織寺（野洲市）
 - g. 真宗出雲路派、毫摂寺（越前市）
 - h. 真宗誠照寺派、誠照寺（鯖江市）
 - i. 真宗三門徒派、専照寺（福井市）
 - j. 真宗山元派、證誠寺（鯖江市）
- 2) 例えば以下のものが挙げられる。
 - a. 多屋頼俊（1933）和讃史概説，法蔵館，338pp.
 - b. 出雲路英淳（1999）『三帖和讃』の読誦について，札幌大谷短期大学紀要 30，11-23.
- 3) 深見友紀子・遠山和大・赤羽美希（2015）「正信念仏偈」データベースとeラーニングの構築（その1）五線譜化へのプロセス―その1，京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要，（28），43-61.
- 4) 深見友紀子・黒田義道・遠山和大・赤羽美希（2016）「正信念仏偈」データベースとeラーニングの構築（その2）越前4派の旋律収集と楽譜化，京都女子大学宗

教・文化研究所研究紀要, (29), 61-74.

- 5) 京都女子大学宗教文化研究所 (2016) 正信念仏偈データベース, <http://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/shisetsu/shukyo/db.html>, 2016年9月2日閲覧。
- 6) 浄土真宗本願寺派日常勤行聖典編纂委員会編 (2013) 浄土真宗本願寺派 日常勤行聖典, 本願寺出版社, 142pp.
- 7) 真宗大谷派宗務所本願部編 (2013) 真宗大谷派勤行集, 真宗大谷派宗務所出版部, 129pp.
- 8) 本山佛光寺編 (2011) 真宗佛光寺派常用聖典, 本山佛光寺, 107pp.
- 9) 真宗興正派勤式指導研究所 (2009) 同朋聖典, 真宗興正派宗務所, 120pp.
- 10) 勤式委員会編 (2010) 真宗木辺派平成新編勤式集, 真宗木辺派本山錦織寺, 161pp.
- 11) 「墨譜」とも呼ばれる。
- 12) 音価は、音や休止の時間的な長さのこと。音高は、音の高さのこと。
- 13) 本山佛光寺 (2004) 真宗佛光寺派門信徒用行譜正信偈六首引五線譜, 本山佛光寺・真宗佛光寺派, 48pp.

〈キーワード〉

浄土真宗 仏教声明 正信偈 念仏和讃 eラーニング 五線譜